

# キャリア通

- ★ 体調を崩していませんか？
- ★ 「やらされ感」こそ 負の成果
- ★ キャリア教育を重視すると学習意欲が上がる？



7月になりました。テストや成績処理等でとつても忙しくなりますが、ジメジメと雨が降ったりカラッと晴れたり、体調も崩しやすい時期ですので、先生方、体調には充分お気を付けください。



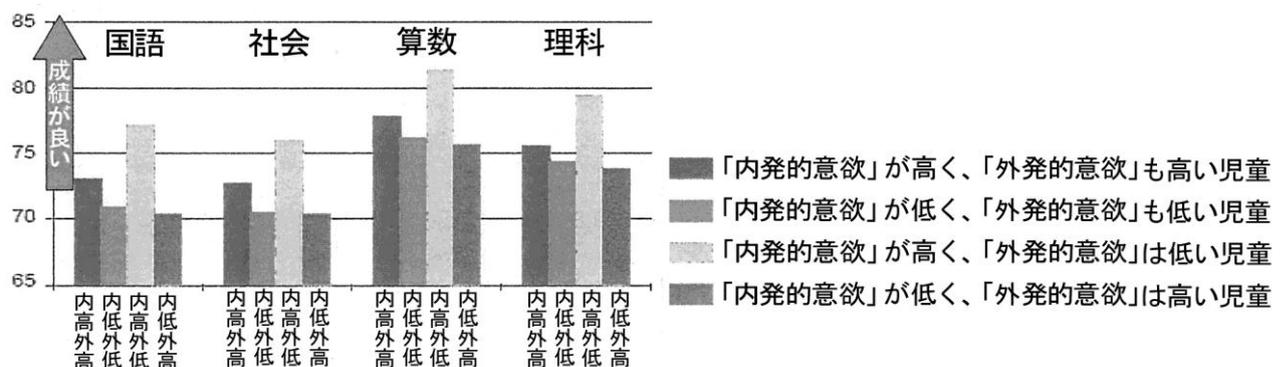
6月の中旬に、『全国キャリア教育・進路指導担当者等研究協議会』という会に行ってきました。今日はそこで聞いてきたことの中から、いくつかご紹介します。



まず、長田(おさだ)調査官のお話から。

「水辺に馬を引いても、水を飲むのは馬」であり、「やらされ感」こそ負の成果ということ、東北大学加齢研の膨大なデータ分析によって証明されました。

親から「勉強を頑張ったら〇〇を買うちゃお」「勉強せんと部活をやめさせるで」などと、他者からの叱咤激励によって勉強すること(外発的意欲)と、本人の自発的なやる気(内発的意欲)とが、学習成績にどんな影響があるか？下図をご覧ください。



内発的意欲が低い(やる気がない)と、親に言われても言われなくても成績が良くないのは分かりますが、やる気のある子については逆に、他者からの意欲付けが少ない方が圧倒的に成績が良くなっています。

では、大人や教師は何をすればいいのでしょうか。これは私見ですが、直接「頑張れ」というのではなく、教師の工夫で勉強に興味をもたせることの重要性を示しているのではないのでしょうか。

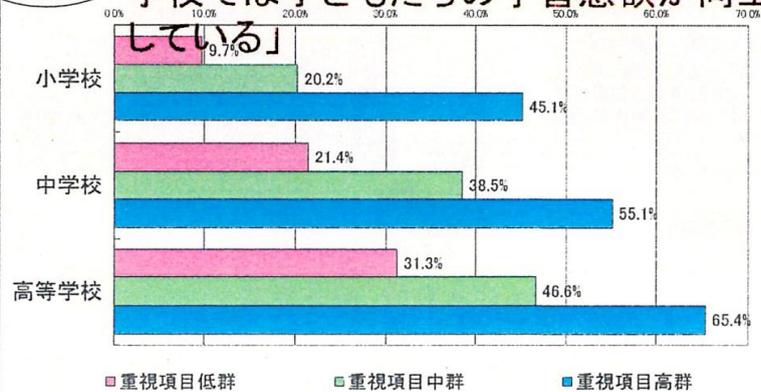
他国と比較したデータからも、日本の子どもたちは『勉強はできるけど大嫌い』『勉強は将来役に立つとも思っていない』『勉強や授業は我慢だ』と、勉強への『やらされ感』を強く感じているということです。

そのため、①学校での生活や学びに対する目的意識の希薄さが見られること、さらに、②「社会的・職業的自立」に向けて様々な課題が見られ、③「学校から社会・職業への移行」が円滑に行われていないことが課題となり、『教室内の学び』と『実生活や将来の社会』を連結することが不可欠であり、その重要な役割の中核となるのがキャリア教育であるということです。

## ほんとうに学習意欲は喚起されるのか

全国

管理職「キャリア教育を重視している学校では子どもたちの学習意欲が向上している」



左の図の詳しい説明は省略しますが、

「キャリア教育に前向きに取り組んでいる」かどうかを低群・中群・高群の3つに分け、「子どもたちの学習意欲が向上している」と管理職が答えた割合をグラフ化しています。



グラフを見ると、キャリア教育に前向きに取り組むことで、子どもたちがやる気になると感じていることがしっかりと表れています。

『これやったら、キャリア教育をやらんと損！』なのかもしれませんね。

長田調査官は、データの分析だけでなく、前向きに取り組んでいる学校に実際に足を運んで見聞きし、実感したことを交えて話されていました。



筑波大学 藤田教授の基調講演では、総合的実態調査の結果を基に、キャリア教育の現状と課題が話されました。

現在全国の小中学校で実施している職場体験の課題として、

小学校では、職場体験を実施するための校内組織ができていない学校が多く、担当学年の担当者が孤軍奮闘している実態があり、

中学校では組織はあるものの、実施する学年（中2がほとんど）の学年行事化し、1年ごとに新たな組織で取り組むために経年による成果の積み上げが薄いという課題があげられました。

須崎市でも職場体験の担当者会で「今年初めて担当になったので、よく分からない」という学校もあり、小中ともに担当者や担当学年まかせの体制から、学校全体として取り組む組織づくりを進めていく必要があると感じました。



全体計画や年間指導計画の具体的な目標設定や、評価項目が弱いという指摘もなされました。目標が具体化していないと、成果・結果の評価が行えず、実践の改善ができなくなってしまうので、まず目標を具体的にたてることの重要性を話されました。



さらに小学校ではキャリアカウンセリング（中学校で行われている広義での個人面談ととらえています）が弱く、中学校では教科でのキャリア教育が弱いことを示されました。須崎市でもキャリア教育視点での教科のあり方について、児童生徒の学習意欲向上のために重点的に取り組んでいきたいと思っています。